

小学校社会における経済・消費者教育の 単元開発に関する研究

—小学校第6学年 歴史分野（江戸時代）の学習に焦点をあてて—

田村 徳至

キーワード：小学校 社会科 経済教育 消費者教育 歴史（江戸時代）

1. 本研究の目的と背景

本研究の目的は、小学校社会第6学年の歴史分野における経済・消費者教育に関する学習単元を開発することである。

現行学習指導要領¹⁾の小学校社会における経済に関わる枠組みとして「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の中に「経済・産業」がある。これに該当する項目は、第3学年の「地域に見られる生産や販売の仕事」、第4学年の「人々の健康や生活環境を支える事業」、第5学年の「我が国の産業（農業・水産業・工業、情報と産業の関わり）」「我が国の国土」である。一方、第6学年の学習事項は「政治の働き」「国際関係」と「歴史と人々の生活」の中の「我が国の歴史上の主な事象」となっており、第5学年までのように経済・産業面が中心とはなっていない。

しかし、歴史事項を確実に把握するには、その時代の経済・産業の特徴も理解する必要がある。飛鳥時代から平成までの各時代の中でも江戸時代は徳川家による全国統一支配が完成され、一般的に全国に通用する貨幣が作られていた最初の時代である。徳川幕府による全国支配の背景にある貨幣制度や商業（産業）など経済面の学習は重要と考える。経済面の学習も行うことにより、その時代の特徴が把握しやすくなるばかりでなく、中学校第3学年で学習する公民的分野（経済単元）の学習を円滑に行うことが可能になると考える。

金融広報中央委員会は、B金融や経済の仕組みに関する分野の小学校高学年の目標として「預金、貸出等の銀行の基本的機能について理解する」他8項目を設定している。中学校では「金融機関の種類と機能について理解する」他23項目がある。江戸時代の金融機関としては両替商が該当する。小学校の段階において江戸時代の両替の仕組み・制度などを学習しておくことは、明治時代以降の「金融機関の種類と機能について理解する」ことに十分つながるものとなる。そこで筆者は、金融広報中央委員会が設定した小学校高学年の目標の達成と中学校社会科（経済分野）との円滑な接続を目指し、第6学年の「我が国の歴史上の主な事象」の項目において、本格的な貨幣制度（三貨制度 金貨-銀貨-銭貨）が整った江戸時代の歴史学習に経済・消費者教育に関係した内容を組み

入れた単元の開発を試みた。

これに関係した先行研究として呂²⁾は、これからの小学校の経済教育、社会科教育の在り方や方向性を究明することを目的として、平成20年度版と平成29年度版の「小学校学習指導要領解説 社会編」に出現する語句の出現回数と共起関係に関してテキストマイニング (KH コーダー) を行い分析している。呂の研究から、経済的概念は「地域学習」「産業学習」において中心をなすことが明らかとなった。呂の研究から、小学校第6学年の社会科歴史的分野の単元において経済の視点を盛り込んだ学習を行うことは、自らの理解度や授業時間数から考えて容易ではない。しかし、中学校の学習内容の接続の点から第6学年の段階においても経済を意識した学習を行うことは重要であると考えられる。

3 調査項目・結果と考察

(1) ①現行の教科用図書の記述内容

東京書籍³⁾、教育出版⁴⁾、日本文教出版⁵⁾の3社の教科用図書を調査・分析対象とした。

i 金融・経済系の出現語・文章

東京書籍

	金融・経済に関する内容	経済に関わる用語
第1時：徳川家康と江戸幕府	幕府領と大名領	石高
第2時：将軍による支配の安定	日光東照宮を大規模に建て直し	勘定奉行
第3時：大名のとりしまりと参勤交代	さまざまな土木工事の費用や労力 旅人, 荷物や手紙を運ぶ飛脚	費用
第4時：人々のくらしと身分	政治や経済の中心である城下町 商業, 手工業, 運輸業 特産物にかかる税	年貢・税
第5時：キリスト教の禁止と鎖国	出島	貿易 貿易船
特設ページ ・まとめる ・ひろげる <u>熙代勝覧</u> 人々のせりふを考えよう。職業を見つけよう		
第1時：町人の文化と新しい学問	江戸や大阪のまちは, 政治や経済の中心地 商業	
第2時：人々が歌舞伎や浮世絵を楽しむ	芝居小屋 浮世絵, 旅	安く売られ 買い求められた
第3時：新しい学問・蘭学	洋書の輸入	輸入
第4時：国学の発展と新しい時代への動き	大きなききん 物価も大きく上がった	物価

教育出版

	金融・経済に関する内容	経済に関わる用語
第1時：江戸を目指す行列		
第2時：江戸幕府と大名	幕府領と大名領の割合 江戸城の修理, 土木工事	<u>米の生産量</u> <u>たくさんの費用</u> <u>負担</u>
第3時：人々の暮らしと身分	酒や茶を買って飲まないこと	<u>年貢</u>
第4時：鎖国への道	日本人の商人 ポルトガルの貿易船 貿易船, 出島	<u>貿易・利益</u> <u>輸入・輸出</u>
第5時：鎖国のもとでの交流	アイヌの人たちと交易 アイヌの人たちを安い賃金で働かせた	<u>交易</u> <u>取り引き</u> <u>賃金</u>
第1時：都市のにぎわいと人々の楽しみ 熙代勝覧	天下の台所 経済の中心地	<u>取り引き</u> <u>商業</u> <u>経済力</u>
第2時：活気あふれる町人の文化	歌舞伎を楽しむ人々 (絵)	<u>交流</u>
第3時：文化を支えた産業と交通	<u>現金収入を得る農民が増えた</u> 計算をしたりする力をつける者もいた 暮らしに余裕が生まれた人々の間では 旅が流行 旅を楽しむ人々 (絵)	<u>商品作物</u>
第4時：新しい学問		
第5時：人々と学問, 新しい時代への動き	大きなききん	
特設ページ：持続可能な社会を歴史から考えよう	紙くず買い・灰買い 下肥買い・古着屋・古傘買い	<u>売り買い</u>
特設ページ： 8代将軍徳川吉宗が進めた改革	財政を立て直すため武士達に儉約にはげむことを命じた。年貢を増やす。 堂島（大阪）の米市場（絵）	<u>財政</u> <u>儉約</u> <u>年貢</u> <u>米の値段</u>
8 明治の新しい国づくり ・江戸幕府がたおれる	幕末の米の値段の移り変わり(グラフ)	

日本文教出版

	金融・経済に関する内容	経済に関わる用語
第1時：大名行列のようす	行列のようすや費用	<u>費用</u>
第2時：大名行列の費用や日数	鳥取藩の帰国時の費用（円グラフ） 1万石以上の領地 お金の博物館	人件費, 馬の運賃 <u>諸品購入費,</u> <u>川わたし賃, 船賃,</u> <u>宿泊費</u>
第3時：江戸幕府に大名支配	江戸での費用	<u>費用</u> <u>石高</u>
第4時：江戸時代の身分制と人々の暮らし	酒や茶を買って飲まないこと 税（ねんぐなど）を納めて	<u>ねんぐ</u> <u>商工業</u>
第5時：キリスト教の禁止と貿易の取りしまり	日本とアジア各地との貿易（地図） 18世紀後半の出島のようす（絵）	貿易船 <u>貿易</u> <u>出島</u>
第6時：江戸時代の外国との交流	琉球王国に中国との貿易を続けさせて、その利益を手に入れたりした	<u>貿易, 交易</u> <u>輸出・輸入</u>
8 江戸の社会と文化・学問 第1時：江戸のまちのようす	江戸図屏風（絵）	<u>豊か</u> <u>貿易</u>
第2時：盛んになった産業	<u>収入を増やす百姓も増えた</u>	<u>生産を高める</u> <u>特産物</u>
第3時：力をつける町人	<u>大名にお金を貸す</u> <u>大阪は天下の台所, 商人</u> <u>江戸の呉服店（絵）</u>	<u>売りさばかれる</u> <u>現金掛け値なし</u>
第4時：町人文化の広がり	<u>たくさんの人々が買い求めた</u>	<u>買い求める</u>
第5時：国学の広がりとお子もの教育	日常の生活や商品の取り引きに必要なことを学んだ	
第6時：蘭学のはじまり		商人 経済力
特設ページ：「江戸時代リサイクル」 新聞をつくろう	江戸のリサイクル業	貿易を制限, 輸入 売る
9 明治の新しい国づくり 第4時：江戸幕府の政治のおとろえ	<u>18世紀後半から不作により, 米などの</u> <u>値段が上がりました。</u> <u>生活の不安が大きくなった。</u> <u>生糸などが輸出され品不足になりました。</u> <u>米の値段の移り変わり（グラフ）</u>	値段 貿易 輸出

②教科書各社による経済系用語の記述表

☆ 図・写真（絵入り）紹介 ★ 図・写真（絵）のみ ○ 文分のみ
 ● 脚注のみ △ グラフ&解説文 ▲ グラフのみ

	東京書籍	教育出版	日本文教出版
	7 江戸幕府と政治の安定 8 町人の文化と新しい学問	6 幕府の政治と人々の暮らし 7 新しい文化と学問	7 武士による政治の安定 8 江戸の社会と文化・学問
幕府領と大名領の割合	☆		
参勤交代の費用		○	☆▲（鳥取藩） 2000両
大名の石高		☆	●詳しい解説
江戸での生活 費用	○		○△（加賀藩）
江戸城の修理		○	
土木工事の費用や労力	○	○	
薩摩藩工事40万両	☆		
政治や経済の中心	○		
城下町	☆		
商業	○		
年貢・税	☆	☆	
酒・茶を買って飲まないこと（岩村藩）		●	●
特産物にかかる税	★		
貿易			○△（加賀藩）
貿易船	○	○	
出島	☆	☆	☆
輸出・輸入			○
アイヌと交易		○	
本州の産物と取引		○	
熙代勝覧	☆	★	
江戸や大坂、政治経済の中心地	☆	○	
江戸のまちの様子			☆
江戸両国橋付近の様子	●		
大阪を出る船の様子	●		
大阪港のにぎわい		☆	
商業も発達	○		
商品作物		○	
現金収入		○	
収入を増やす百姓			○
大名にお金を貸す			○
江戸の呉服店（三井）			☆
大きなきぎん	△	△	
再利用（紙くず買い・下肥買い）		特設ページ★	
		8 明治の新しい国づくり	9 明治の新しい国づくり
江戸時代後半 物価も大きく上がる	○（江戸時代で扱う）	○	☆米の値段上がる
幕末の米価値上がりのグラフ		▲	▲

【経済系用語に関する分析結果】

- ・ 3社とも「費用」という言葉が登場している。
- ・ 参勤交代に関わる費用、大名の石高（収入）、外国との交易、年貢（税）、物価上昇（特に幕末期の米価上昇）など、経済・金銭に直接関わる事項を学ぶが、金銭そのものに関する記述は教科書では見られない。三貨制度（金貨・銀貨・銭貨）と当時の交換比率4進法であったことを詳しく触れる必要はないと考えるが、児童は当時のお金に関心があると考える。
- ・ 現行の学習指導要領 解説社会編 P. 118～P. 120 には、江戸時代初期から幕末明治期にかけて「イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ア 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。」とある。このため、当時の世の中の様子と歴史上の主な事象を正しく捉えるには、当時の経済状況（貨幣制度や交換比率など）を学ぶことは十分な意義があり、かつ必要なことと考える。

③テキストマイニング（KHコーダー）による分析「全体的なもの」

- ・ 教科書では、「大名の石高」「参勤交代、各種土木工事」「年貢」「税」「人々の生活」「貿易」「交易」「天下の台所」「経済」「商品作物」「旅」「娯楽」「売買」「商人」「米の値段」など、金銭に関係する用語が数多く出現しており、経済事項も重要な学習事項であるとしていることがうかがえる。
- ・ 政治的な事項を中心として扱っている。これでは、子どもたちは「歴史は起きたことだからとその原因・結果」のみを把握することとなり、経済から歴史をとらえるという視点が欠落してしまう可能性がある。
- ・ 第3学年～第4学年学年時の学習では生産者・販売者の工夫という経済的視点からの学習があったが、第6学年から中学校第3学年の10月ごろまで経済分野の学習を全く行わない可能性がある。歴史・地理はそれぞれ分野における学習のねらい（目標）が設定されているが、経済の視点を重視した学習内容を行うことで、経済系の学習が途切れることなく中学校第3学年公民（経済）分野の学習がスムーズにいくのではないかと考える。

「各教科書別の特徴」

教科書の江戸時代全般にわたる記述用語の出現回数と用語の関係性を明らかにするため、3社（東京書籍、教育出版、日本文教出版）が発行している教科書を、KHコーダーを使用しテキストマイニングを行った。

東京書籍は出現2語以上とした。

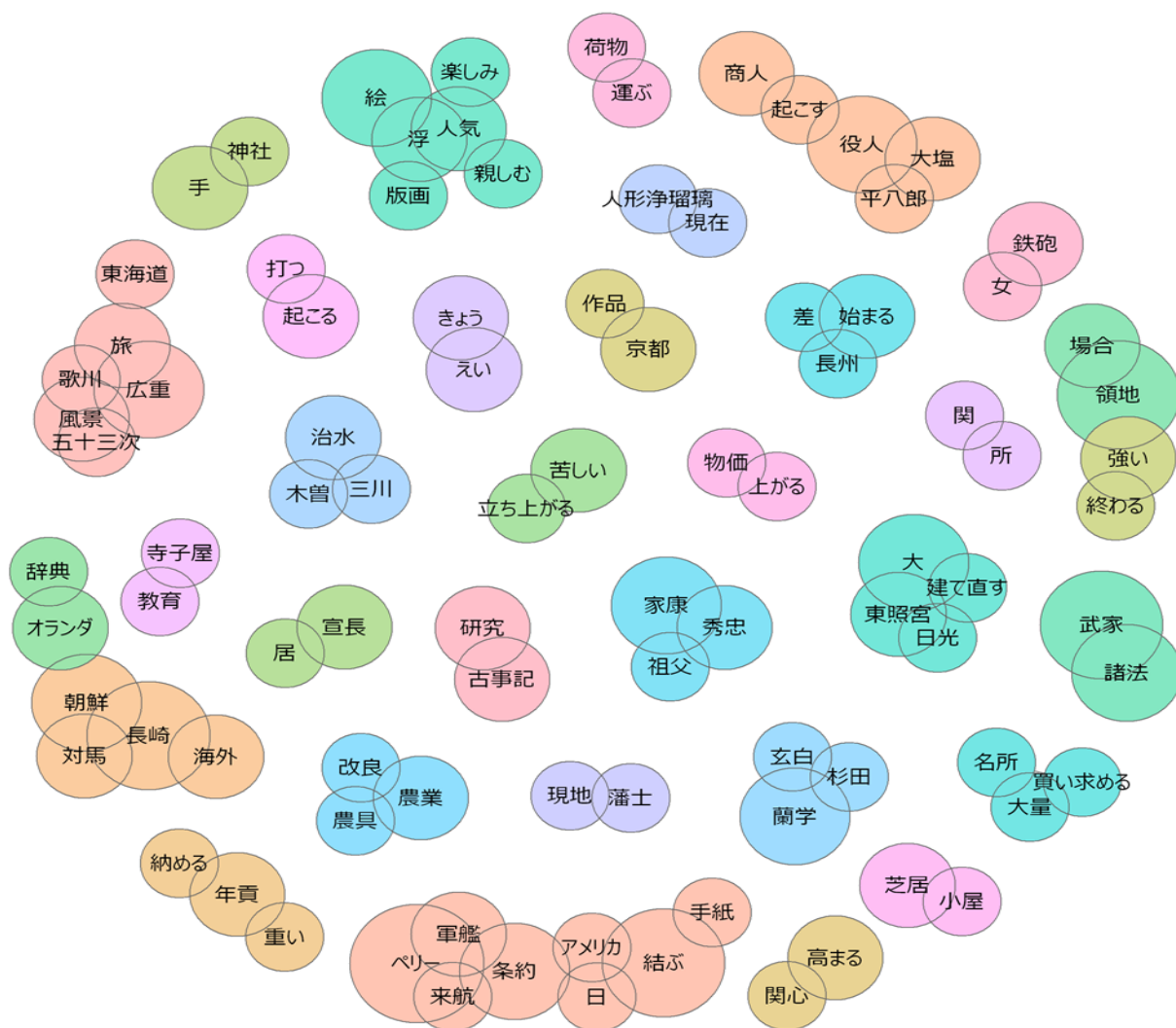
その結果、為政者の立場である武士に関する用語は「名詞＋名詞」、例として「家康」「秀忠」「祖父」、政治的事項に関しても「鉄砲」「女」というように知識事項としてのつながりになっている。一方、経済に関わる用語については「名詞＋動詞」、「名詞＋形容詞＋動詞」、例として「年貢」「納める」「重い」、「物価」「上がる」となっており、庶民・農民の生活が苦しいことを表されている。

教育出版も東京書籍同様2語以上とした。

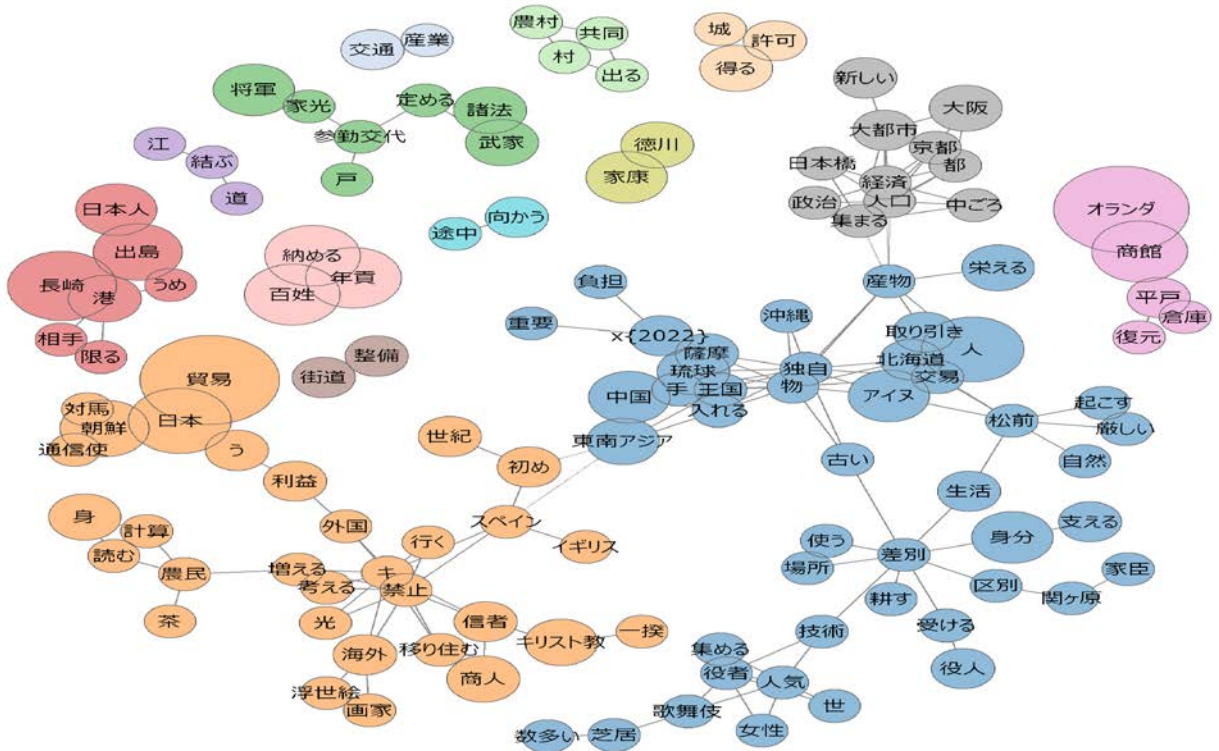
東京書籍と同様に多次元尺度構成法による関係図から、東京書籍の記述関係と比較すると各歴史事項と事項との関連が見て取れる。例として、東京書籍は左下にある「農業」「農具」「改良」の3語のつながりだけであるが、教育出版では左下にある「農民」「計算」「読む」「茶」、右下の「差別」という語句を中心に「耕す」「使う」「生活」「身分」というように農民関係を表す語句と語句とのつながりが見て取れる。さらに右上にある「経済」という用語を中心に「人口」「産物」「大都市」「京都」「産物」「集まる」など関係した事項との関連が図られるようになっている。

日本文教出版は2語では解析不能であったため、3語以上とした。日本文教出版は、東京書籍と同様に関連した用語のみで構成されている。教科書の文章から経済系の用語は他の2社よりも多く記述されているが、出現回数を3回以上に設定したこともあり、テキストマイニングではあまり関係性がみられなくなっている。しかし、「特産」「生まれる」、「ます」「く」「納める」、「飛脚」「運ぶ」、「外国」「為替」など、当時の産業や税制に関わる記述が表れていることが特徴である。また、「町人」「百姓」が表出していることから、江戸時代の立場が違う者同士の関係性を把握することができる。

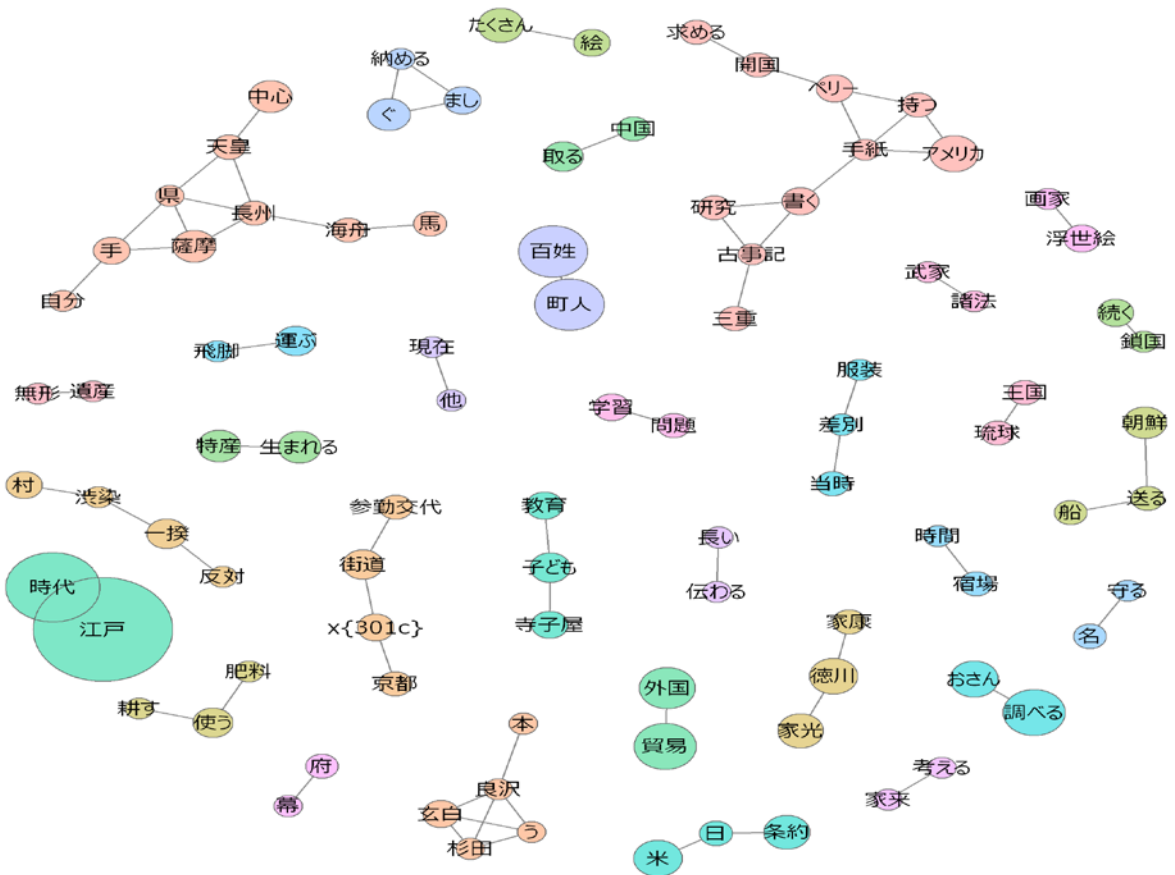
東京書籍（出現2語以上）



教育出版 (出現 2 語以上)



日本文教出版 (出現 3 語以上)



4 開発した学習単元

学習プログラム (試案)

- 1 ねらい：当時（江戸時代）の貨幣価値を考えることを通して、江戸時代の人々の生活に思いを馳せ、金銭に関わる解決のために経済的な見方・考え方を働かせ、心温かい経済的エージェンシーの形成を目指す。
- 2 ねらい達成のための手段：
博物館を活用する。
日本銀行金融研究所貨幣博物館が作成した資料を活用する。
「お金の豆知識 江戸時代の1両は今のいくら」を活用する。
- 3 ねらい達成のためのテーマ：
小学校第6学年歴史編（江戸時代：近世）
江戸時代の人々はどのような生活をしていただろうか。当時の貨幣制度・貨幣価値から明らかにしてみよう。

4 単元計画

- 第1時：徳川家康と江戸幕府「つかむ」
江戸幕府はどのようにして政治を安定させたのだろうか
- 第2時：将軍による支配の安定・大名のとりしまりと参勤交代「調べる」
3代将軍 徳川家光はどのようにして支配したのだろうか
松本藩はどのような様子だったのだろうか
地元にある松本城と博物館を見学して明らかにしたいことをまとめる
- 第3時：松本城の見学「調べる」
城内と博物館の見学・学芸員さんからの話を聞き、まとめる
- 第4時：人々のくらしと身分「調べる」
江戸時代の人々はどのようにして暮らしていたのだろうか
- 第5時：江戸時代の人々の生活をお金から探ってみよう（本時）
江戸時代のお金（貨幣制度）はどのようなものだったのだろうか
- 第6時：キリスト教の禁止と鎖国
江戸幕府は、長崎でオランダと中国と交易したのに、どうしてキリスト教を禁止したのだろうか。
貿易による利益はどのくらいあったのだろうか。

第5時（本時）

○教師の発問 *教師による説明 ・児童の学習活動（発言）

	子どもの学習活動・教師の発問（指導・援助）	指導上の留意点
導入 (5分) 既習事項の復習	○熙代勝覧（江戸時代の人々を描いた絵巻）を見て気づいたことを発表しよう。（東京書籍・教育出版） ・いろいろなお店がある。・道路が舗装されていない。 ・みんな着物を着ている（だれも洋服を着ていない）。・道路で何か物を売っている人がいる。	・子どもたちの自由な発想を引き出す。 ・売り買い

<p>展開2 (20分)</p>	<p>◎人々の生活に思いを馳せよう</p> <p>○江戸時代のお米の値段 米1石(約150kg) = 1両とします。 今のお米 10kg = _____ 円 (スーパーで調べてきたことを記入する)。 150kgの値段はいくら? 10kgのお米の値段 _____ ÷ 10 × 150kg = _____ 円 1両は約 _____ 円となります。</p> <p>*仮に10kgあたり3,000円とすると、1両=45,000円となります。みんなはいくらになったかな?</p> <p>*江戸時代の米価は玄米価格ですが、ここでは概算として精米価格とします。</p> <p>○当時の松本藩(戸田松平家)は6万石の大名でした。 お米何kg取れたことになるかな? 150kg × 60,000 = 9,000,000kg 1kgあたり300円とするといくらかな? 27億円の収入</p> <p>・すごいお金持ちだ。・でも家来に給料出さないといけないし、参勤交代や江戸での生活費、いろいろな土木工事をしなければならなかったから大変だったかもしれないよ。</p> <p>*では次に町人たちの生活を考えてみましょう。</p> <p>*年代や場所、仕事内容にもよるため一概には言えませんが、普通の職人さんの1日あたりの収入は約200文でした。 1か月あたり6,000文 = 1両 年収(1年)で12両ということになります。</p> <p>○教科書P.88-89の熙代勝覧をもう一度みてみましょう。 P.88の真ん中あたりに道の中央でお団子らしいものを売っている人がいます。お団子で換算した時の1両の値段(価値)はいくらかな? 団子1,625本(1本4文, 4ッ刺し) 今のお団子の値段 1本 33円 ←スーパーデリシア 33円 × 1,625本 = 53,625円 になります。</p> <p>○熙代勝覧にはおそば屋さんが見当たりませんが、お蕎麦の代金で換算するといくらになるかな? 江戸時代のお蕎麦の値段 1杯16文とすると(江戸中～後期) 仮に1両=6,500文とすると、1両で6,500文 ÷ 16文 = 約406杯のお蕎麦を食べられたこととなります。 今のお蕎麦の値段 _____ 円 × 406杯 = 203,000円 500円とする。</p> <p>○熙代勝覧にはお屋敷も描かれています。家を建てるなどで大工さんを雇うとなるとどうでしょうか? 江戸時代に1両で23人の大工さんを雇えたという事例があります。 今の大工さんの日当13,490円 × 23人文 = 310,270円</p> <p>○これらのことからどのようなことがいえるかな? ・考える目安が違くと1両の価値が全然違う。</p>	<p>・19世紀前半の武蔵国(現在の埼玉県)を例とする。</p> <p>・大工さんの日当約13,490円(厚生労働省統計より算出2020年)</p>
----------------------	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・同じものでも時期が違おうと違おう（どのくらい違おうのかな） ・日常的な食べ物でもお団子とお蕎麦でこんなにも違おうとは思わなかった。・博物館で本物を見たけど、「金」って価値があるんだね。・江戸時代は不便だったのかな。・江戸時代の人たちはお金の価値が違うのに生活していたなんてとても生活力があると思う。・今は安心してものが買える。 ・お金を大切にしないといけない。 	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容と感想をノートに記述する。 ・誰もが安心して生活できる社会にするために自分には何ができるか考える。 ・次時の予告（模造紙に貼り付けられたコメントを基にして環境問題を考えていく） 	

- ・学習項目は教科書採択率（数）が多い，東京書籍のものを参考にした。
- ・日本銀行金融研究所貨幣資料館発行資料「お金の豆知識 江戸時代の1両は今のいくら」を引用・参考（一部筆者改）とした。

5 本研究の成果と今後の課題

(1) 本研究の成果

①児童は時代劇等で江戸時代には小判しかないというイメージを持ちがちであるが、江戸時代は三貨制度が確立し、金貨（小判）だけではなく銀貨・銭貨も流通していた。そこで金・銀・銭貨の交換比率を学ぶことは中学校歴史分野の学習と公民的分野（経済）の学習に関して興味を持つよい機会となると考える。さらに、江戸の町の当時の様子を描いた熙代勝覧から人々の生活と商売に関わることを取り上げ、経済に興味を持たせられるような学習プログラムを開発した。

(2) 今後の課題

- ①学習プログラムを開発したが、あくまで江戸時代の一部であり実際の小学校において授業実践したわけではないため、児童の学習効果を確認されてはいない。今後、松本市内の協力校で実践を行い、歴史学習における経済分野の学習効果を検証し、改良することである。
- ②本研究成果を江戸時代以外の時代の開発につなげ、経済に関わる歴史学習の単元開発を行い児童の経済への興味を高め、中学校の学習へとつなげられる単元開発を行うことである。

<参考文献>

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』，平成29年3月
- 2) 呂光暁、「学習指導要領の変化から見た小学校社会科教育の方向性-経済学習を中心として-」、白鷗大学教育学部論集、2019、13（2）、PP.115-134
- 3) 新しい社会6 歴史編、小学校社会科用 文部科学省検定済教科書 2 東書 社会602、東京書籍、令和2年2月10日発行

- 4) 小学社会 6 文部科学省検定済教科書 小学校社会科用 17 教出 社会 603、令和 2 年 1 月 20 日発行
- 5) 小学社会 6 年 文部科学省検定済教科書 小学校社会科用 116 日文 社会 604、令和 2 年 2 月 10 日発行

【註】

- ・ 現行の学習指導要領（平成 29 年度版）では、社会科の年間授業時数は第 3 学年 70 時間、第 4 学年 90 時間、第 5 学年 100 時間、第 6 学年 105 時間となっており最高でも第 6 学年の週 3 時間である（105/1015, 10.3%）。第 5・6 学年では国語と算数がそれぞれ 175 時間（17.2%）となっている。授業時間の制約がある中で新たな特設単元を開発したとしても、現実的に学校現場での授業実施は困難である。
また、これまでの長野県内の小学校教員に対するアンケート調査（田村 2020）からも「他にやらなければならないこと（算数, 外国語活動や道徳の準備など）があり、社会科の授業準備までは中々手が回らない」という実態が明らかになっている。
- ・ 金融広報中央委員会は、事務局を日本銀行情報サービス局内に置く組織である。「知るぽると」という名称でインターネットサイトがあり、金融教育に関する授業実践事例や教材・指導書やイベント・セミナーなどの案内等が掲載されている。
- ・ 本稿は、日本社会科教育学会 第 71 回全国研究大会（福島大学 オンライン開催）にて自由研究発表を行った原稿を一部加筆修正したものである。
- ・ 本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 C（課題番号：19K02727）の助成を受けて遂行した研究成果の一部である。ここに謝意を記す。

（信州大学 総合人間科学系 教職支援センター 准教授）

2022 年 1 月 30 日受理 2022 年 2 月 1 日採録決定